



花夢の里だより

<http://setsuofujime.com/hatanokawa.html>

第5号

2017年3月19日発行

畑野川の里づくりグループ

事務局：上畑野甲川980-1

TEL&FAX 0892-41-0033

竹灯籠まつり・そば打ち大会開催

「畑野川の里づくりグループ」のこれまでの活動（花の植栽や竹灯籠まつり等）に、新たにそばの育成とそば打ち大会の活動が加わりました。また、竹灯籠まつりも今回から畑野川小学校の全生徒の参加を得て、活動の輪が一段と広がりました。まつりは愛媛新聞紙上で事前の告知と事後の報告がなされ、昨年を上回る人出で賑わいました。少しずつですが、町民の方々に喜んでいただける地域のまつりへと変貌しつつあります。

竹灯籠まつり

多くの人から待ち望まれるようになってきた「竹灯籠まつり（第三回）」が、五月二十八日（土）に開催されました。今回は、竹灯籠を設置する棚田の数の増加により一段と素晴らしい景観になりましたが、それと同時に来訪者の注意を引いたのが、畑野川小学校の生徒全員が描いた絵を貼った竹灯籠でした。生徒たちは両親やおじいさん・

おばあさんと訪れ、「あつ、僕の絵がある」と大喜びでした。もう一つ注目されたのが、上浮穴高校生が作成した会場入り口を飾る大きなモニュメントです。五本の木の枝に吊り下げられた多様なデザイン竹灯籠が夜空に幻想的に輝き、まつりの魅力を一層盛り上げていました。竹灯籠まつりは、竹灯籠に火を灯して景観を楽しみむだけが目的ではありません。自然の恵みと、素晴らしい棚田を残して

くれた先人に感謝し、その年の豊作を願う祭典でもあります。それゆえ、まつりのテーマも、「自然と先人に感謝し、豊作を願うまつり」としました。今回も多くの皆様のご協力をいただきました。後援をいただきました上・下畑野川公民館、協賛していただいた上浮穴高校・畑野川小学校をはじめ、個人的にご協力いただいた全ての方に、この紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

そば打ち大会

四国山地は昔から焼き畑農業が盛んで、伐採した木々の枝葉を燃やした後に最初に植えられる作物がそばでした。久万高原町では旧柳谷村を中心に盛んに栽培されてきました。が、今では畑で細々と栽培されている状態です。このそばの産地の復活は、そばを栽培し、そばを打ち、そばを食べてもらう機会を作れば、畑野川の人々に喜んでもらえるのではないかと考え、実行してまいりました。



会員と高校生による竹灯籠の準備



上浮穴高校生が制作したモニュメント



土居会長の開会の挨拶

したのが「そば打ち大会」の事業でした。えて実施

渡部健さんから一反余の土地を無償提供してもらい、七月の草刈り作業を皮切りに一連のそばの栽培作業を多くの方々との協力を得て行いました。作業の詳細は裏面の活動記録をご覧ください。



そばの刈り入れと天日干し



そば打ち大会



そば打ち名人への道険し



刈り取り終了 全員集合！



クラフトの里でそば打ち研修

そばの収穫が終わったのは、そば打ちです。そば打ちは誰もそが打たないのです。そこで、旧中山町のクラフトの里にそば打ちの練習に行きました。（真正正銘の泥漉式です。）その後も役員はそば打ちの練習に励み、間合を合わせました。当日は、久万山や松山市から30名が参加し、数人がワイワイと

みんなそば打ちを楽しみました。そばがおいしかったのは、参加者のそば打ちの腕？と近藤氏さん・上岡理恵さん等が作ってくれたそばつゆのお陰です。一連の活動の苦勞と楽しさを、写真からご想像ください。なお、そば打ち大会は5月27日、28日開催の竹灯籠まつりでも開催予定（そば打ちは28日のみ）です。今回の機会を逃された方は是非ともお越し下さい。

活動の記録(平成28年度)

Table with 2 columns: Date and Activity. Activities include bamboo lantern festival preparation, soba cultivation, and various community events.

今年度の活動は、昨年度と同様の共同植栽地への花植え・管理や竹灯籠まつりに加えて、その大会の開催でした。...

今年度の活動

高校の依頼で、総合学習の時間に一年生の生徒に私たちの活動について講演しました。

花のある風景



私たちが活動を開始して五年半が経過しました。まだまだ不十分ではありますが、「花のある風景」が少しずつ山里に馴染んできたように思います。



ふるさと畑野川 明神 笑子さん



定年退職を機に、ふるさとの実家に移り住んで20数年。その時に記念に植えた桜も、今では毎年柳井組の人達とお花見をする恒例の行事になった。

畑野川の里づくりについての上浮穴高校生の感想

- A 畑野川に祖母の家が在り、年に数回行くのですが、花の話をおばあちゃんからも聞いたことがありました。
B 畑野川の里づくりグループのことは知っていたので、興味を持って聞けた。
C 自分たちが関わった竹灯籠まつりの話や畑野川の里づくりグループでの活動の話聞いて、自分たちにもできることがあることを知ることができた。
D 自分たちが住んでいる地域をよりよいものにしようと地域住民が協力して取り組めるのは、すごくいいことだと思いました。

す(左表)。私たちの活動やまちづくりに多少なりとも関心のある生徒が少なくないことが分かり、未来への希望を垣間見る思いがしました。

新戦力の加入

前号(第四号)で役員も高齢化し、新戦力の加入が待たれると愚痴を述べましたが、この度、待

望の新役員が三人も加入してくれました。左表の方々です。

勝田智(かつたさとし)

下畑野川に縁を得て12年になります。石鎚山を間近に望むこの地で四季の歓びを五体に感じつつ皆様と一緒に愉しく過ごしたいです。(西峰在住)

幸口 栄二(こうぐちえいじ)

45年間、県内外を移動し、還暦(退職)を機に田んぼの雑草と格闘しています。農と林を生業として培われた畑野川、この先もそのことが感じられる山里であってほしいです。(入野在住)

福田 剛正(ふくだたかまさ)

北海道出身で、一昨年11月より「地域おこし協力隊」として「道の駅」を中心に活動しています。「竹灯籠まつり」を見て感銘を受け活動に参加したいと思いましたが、(落合在住)

まちづくりミニミニメモ 「ないものねだり」からの脱却
まちづくりが停滞している町でよく耳にするのは、「○○がないからまちづくりができない」という言葉です。○○には、人材、金、資源、若者、等々が入ります。

ホームページのアドレス変更 ホームページを事務局長(藤目)個人のホームページの中に配置しました。URLは以下の通りです。
http://setsuofujime.com/hatanokawa.html

編集後記
立ち上げる活動は、継続することの方が難しい、とよく言われます。その理由の一つは、立ち上げは理想を夢見るだけで可能ですが、継続は厳しい現実の中で、夢を見失うことなく活動を展開する必要があります。

第4回 竹灯籠まつり 5月27~28日
第4回の竹灯籠まつりを下記要領で開催します。今年は皆様のご要望にお応えして、2日間の開催となります。竹灯籠まつりに併せて、総会、そば打ち大会、子供イベント、ポップコーンの販売なども行います。

